

発刊	名称	ご質問・御意見等	対応・回答
2009/3	合流式下水道の改善における夾雑物対策を対象とした水面制御装置 技術資料	「特許にかかる実施料」の項目があるが、それには特許料あるいはライセンス料は別々に記載すべきなのか？	”特許料”とは、特許権を取得・維持するために特許庁に対して支払う手数料をいいます。また”ライセンス料”とは、他の企業が開発した製品の設計・製造技術を、別の企業が許可料（ライセンス料、ロイヤリティ）を支払ってそのまま使用し、その製品を使用することです。今回の場合、「特許にかかる実施料」の項目には、問合せしていただいた実施料金だけを盛り込んで下さい。
2013/3	シールド切替型推進工法技術資料	適用最大仕上り内径を2,200mmとしているのはなぜか。	本工法は、推進工法に位置付けられ、さらに泥濃式を前提としています。泥濃式推進工法の適用径や日進量および設備関係や損料関係は、国交省や日本下水道協会および日本推進技術協会が、呼び径800から2,200までを標準歩掛として設定しています。また、各自治体の計画や設計も基本的には、これらの標準歩掛によるものとなっています。よって本工法も、この2,200を最大径として設定し、共通する工種の歩掛も準拠しています。 これ以上の径であっても、施工は可能ですが、その際の設計的な考えについては、標準的な根拠や歩掛はなく、2,200mmの延長で考えます。また、工事費についても配慮が必要になるものと思われます。
2013/3	シールド切替型推進工法技術資料	二次覆工一体型RCセグメントはなぜ1,650mmからなのか。	本工法としては、対象としている1,000mmから、この種のセグメント（50mmの防食層を有するもの）を提供できるのが理想としていますが、径が小さいほど様々な課題（エレクターの能力、搬送方法、セグメント厚さ、製品の信頼性、製品の製造方法等）があり、これらをすべて解決する必要があります。現在、全国を対象として、仕上り内径2,000mm以上ではそこそこの実績があるかと思われませんが、1,800mmや1,650mmの実績としては、無いも同然です。よって、当協会では、セグメント製作会社や掘進機製作会社および搬送設備の会社等と共同で検討を重ね、現時点で可能と考えられる1,650mmの二次覆工一体型RCセグメントを開発いたしました。
2014/3	下水汚泥自燃焼却システム技術資料	炉内温度制御の話があったが、脱水汚泥の供給量の制御とは関係があるのか。	汚泥の投入量制御は電磁流量計によって搬送量を計測し、設定値と比較しながら一軸ネジ式ポンプの回転数を変えるものであり、炉内温度の制御とは切り離されたものです。